



## 南三陸通信 Vol. 8

東日本大震災復興支援として、宮城県南三陸町へ現在派遣している白武和磨主査からのお便り第8号です。

赴任して1年。4月には派遣期限を終えて多久市に戻ってきます。

震災から3年が過ぎても、なかなか実感できない復興…。南三陸町の復興まちづくり事業も着手したのは平成25年9月（震災後2年半）さらに造成完了は3年後です。担当としてとても心が痛いです。しかし、宮城県の震災がれき処理が2月末で終了し、がれき処理プラントがすべて解体されるなど、着実に前進しています。

今回の派遣で、普段の生活が変わりなく送っていることだけでも、とても幸せなことだと思うようになりました。

南三陸町で仕事を終え、夜空を見ると、眼前に広がる星空がとてもきれいで、この美しい夜空は震災前と何も変わっていない。きっとこれからも大丈夫！と感じます。私は日本人の底力を信じています。

## 佐賀東松ボーイズ 西九州大会優勝！



▶多久市から全国大会に出場するメンバー右から  
深川紗也花（西溪校 8年）  
田島竜哉（東部校 8年）  
七浦遥哉（中央校 8年）  
柿木連（中央校 8年）  
竹下練（中央校 8年）  
古賀光汰（東部校 8年）  
※敬称略

第44回日本少年野球春季全国大会（主催：公益財団法人日本少年野球連盟）の西九州支部予選が2月22日・23日に佐賀ブルーススタジアムと芦刈球場の2会場で開催され、見事に佐賀東松ボーイズが優勝し、全国大会への切符を手に入れました。佐賀東松ボーイズには、多久市から6人の選手が登録し、中心選手として活躍しています。

監督の原口三稔さんは「一番の心配は守備。ピッチャーの柿木とキャッチャーの竹下は安定している。全国大会では、8年生（中学2年生）が主体の若いチームなので勝ちにこだわらず、試合内容にこだわりたい」と全国大会の目標を話しました。チームのみんなは「全国制覇！」と意気込みを語ってくれました。

## ザ・スパ武雄ベースボールクラブ全国大会出場！



▲多久市から全国大会に出場した右から  
岸川元樹（中央校 8年）  
本嶋大暉（東部校 8年）  
※敬称略

第22回ヤングリーグ春季大会が、3月21日～23日の日程で、岡山県倉敷マスカットスタジアムで開催され、九州を代表して、ザ・スパ武雄ベースボールクラブが出場しました。チームには、多久市から2人が登録し、レギュラーとして出場。目標の「初戦突破」を目標にベストを尽くしましたが、惜しくも地元岡山の赤磐ベースボールクラブに1対2の逆転負けを喫しました。  
岩本英則監督は「負けたけど、子どもたちには自信になった大会。次は頑張ります」と今後について話しました。

## 市長コラム

### 温故創新

Message for citizen

## 肝がん撲滅プロジェクト発進

市長 横尾俊彦

新年度前の吉報のひとつは特別交付税の確保。9億5000万円要望に対し、10億2394万円が決定され、3月19日多久市に交付された。多久市の大事な財源確保だ。（営業活動の甲斐があった）。もうひとつは「多久市肝がん撲滅プロジェクト」のスタート。市民の健康分析をしてみ、特に肝がん対策は急務だ。佐賀県は肝がん死亡率が全国トップであり、10年以上もフースト1が続く。県内で多久市は肝がん死亡率が高いと分かり、対策本格化を決めた。佐賀大学医学部附属病院の江口医師ほかの専門医チーム、多久市医師会チーム、多久市立病院院長・医師・看護師チーム、市の保健師チーム、市長ほか行政チームが3月19日に第一回目の全体会議を行った。

市民の皆さんには肝炎ウイルス検査を受けてほしい。血液検査で判るから検査は簡単。ウイルスがあればすぐに治療を促します。既に陽性反応者には市長から手紙を出して、その旨を伝えた。完治に向け、チームが協力して取り組みに当たる。

インターフェロン治療は知られているが、副作用など患者の苦勞もある。最近出た新薬は、副作用も少なく、治癒率も高く、期待できそうです。

めざすは肝がん撲滅。もちろん一足飛びにはできないが、やり始めない限り改善はできない。だから取り組みを始めた。全国的に貴重な試みらしく、「多久市がモデルになり、全国に広げてほしい」とは専門医の激励コメント。頑張ります。